


げんでん ふれあい 福井

第29号

2007

AUTUMN

- 
- おかげさまで財団設立10周年
げんでんふれあい福井財団の役割と活動(中)
 - ふくい県民総合文化祭開催
 - 継体天皇即位1500年
「越前出自の継体天皇 -記念年の顕彰事業-」
 - ふるさと福井 人物シリーズ 「若狭の妙玄寺義門(上)」



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的としています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

CONTENTS — 29

- おかげさまで財団設立10周年 げんでんふれあい福井財団の役割と活動(中) …… 2
- 2007ふくい県民総合文化祭開催 …… 4
- 継体天皇即位1500年 「越前出自の継体天皇 -記念年の顕彰事業-」 …… 6
- ふるさと福井人物シリーズ 「若狭の妙玄寺義門(上)」 …… 8
- ふくいの伝統行事シリーズ 「大火勢」 …… 10
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/23 …… 11
- 福井の文学碑「作曲家 今川節」 …… 12
- 第11回福祉演芸会巡回開催 …… 13
- ハーモニーホールふくい開館10周年 …… 13
- 情報ファイル …… 14

おかげさまで 財団設立十周年

げんでんふれあい福井財団の役割と活動(中)

— ふれあい・ゆとりの文化の郷土をめざして —

げんでんふれあい福井財団が平成九年十二月十九日に設立して、本年で十周年を迎えます。

これまで福井県内のそれぞれの地域の方々と文化団体等との交流と連携を密にして、地域に根ざし信頼される財団として一歩一歩地道な活動を続けています。

「財団十年のあゆみ」として、財団活動の主な出来事を今号と次号(第三十号)でご紹介します。

財団十年のあゆみ(Ⅰ)

平成九年〜平成十三年

平成九年(一九九七年)

十月 ■ 財団設立総会開催。

■ 「げんでんふれあい福井財団」の設立認可申請を県に提出。

十二月 ■ 福井県知事および福井県教育委員会から設立認可。

■ 財団法人設立登記。

平成十年(一九九八年)

一月 ■ 第一回財団理事会で理事長に田尻義昭氏を選任。

■ 第一回「福祉寄席」を県内の四福祉施設で巡回開催。

二月 ■ 設立記念式典および記念パーティを開催(日本原電機創立四十周年記念と共催)。

■ 財団設立記念「ふれあいコンサート」開催(東京室内管弦楽団敦賀市市民文化センター)。

■ 財団設立記念「ふれあいコンサート」開催(東京室内管弦楽団敦賀市市民文化センター)。

FRONT COVER



福井県指定
無形民俗文化財
「大火勢」
(おおい町)

おおい町福谷区に伝わる「大火勢」が今年も八月十四日と十五日の両日に行われました。火防を願う農民の心と堂宿神社信仰とが地域に融合し火祭りとして伝えられてきたと言われています。

澄みきった美しい星空のもと、太鼓、笛、鉦の拍子に合わせて「山踊り」を踊った後、「大火勢」に点火、夜空にあかあかと燃え盛る様子は、あたたかも仏像の光背から火を吹き出しているようです。火除けと五穀豊穡を願う火祭りを地元の伊射奈岐神社に奉納されました。

(関連記事(10頁)ふくいの伝統行事シリーズ)



設立記念「げんでんふれあいコンサート」

三月 ■ 文化講演会開催「文化振興と地域活性化のために」

講師 鈴木健二氏 於敦賀市民文化センター。

■ 新人芸術家育成のため「財団奨励金制度」による特別奨励金を斎藤一郎さん(指揮者)

に支給決定し交付。

五月 ■ 財団広報誌「げんでんふれあい福井」創刊号発行。

七月 ■ 第二回「福祉寄席」を県内六福祉施設で巡回開催。

敦賀市内 中学生四 名を東海 村の中学 生と合同 でドイツ へ親善派 遣。

十一月 ■ 「げんでんふれあいコンサート」開催(関西フィルハーモニー管弦楽団) 於敦賀市民文化センター。



中学生をドイツへ親善派遣

平成十一年(一九九九年)

一月 ■ 文化講演会開催「いつも何かにときめいていよう」

講師 藤田弓子氏 於敦賀市

民文化センター。

■「狂言を楽しむ会」開催
出演 茂山千作師 他 於敦
賀市プラザ萬象

■「げんでんふれあいコンサ
ート」(東京シティ・フィルボッ
プス in ハーモニーホール)
開催。

二月 ■第一回「ふるさと大賞」写真
コンテスト (テーマ「ふる
さとの海・川」) 表彰式

三月 ■文化講演会開催「あつとH
O M Eニッポン」 講師 ケン
ト・ギルバート氏 於福井市
フェニックスプラザ

五月 ■新人芸術家育成のために特
別奨励金を

今川裕代さ
ん(ピアノ)
に支給決定
し交付。

七月 ■「げんでん
ふれあいコ
ンサート」
(由紀さお
り・安田祥子童謡コンサ
ート) 開催 於敦賀市民文化セ
ンター。

八月 ■敦賀港開港

一〇〇周
年記念コン
サート「愉
快なドイツ
音楽への誘
い」開催
於つるがき
らめきみな
と博21(き



敦賀港開港 100周年記念コンサート



今川裕代さんに財団特別奨励金を交付

らめきステージ)。

十月 ■第三回「福祉寄席」を県内六
福祉施設で巡回開催。

十一月 ■「げんでんふれあいコンサ
ート」(東京シティ・フィルボッ
プス in ハーモニーホール)
開催。

■文化講演会開催「高齢社会を
どう生きるか」講師 大兼智
子氏於福井県民会館。
■「狂言を楽しむ会」開催
出演 茂山千作師 他 於敦
賀市プラザ萬象。

平成十二年(二〇〇〇年)

一月 ■日・仏小学生絵画交流展開催。
於敦賀原子力館・げんでんふ
れあいギャラリー

二月 ■第一回「げんでんふるさと文化
賞(三名) およびげんでん芸
術新人賞(二名) 表彰式。
■第二回「ふるさと大賞」写真
コンテスト (テーマ「ふる
さとのまつり」) 表彰式。

五月 ■文化講演会開催「みんな地球
に生きるひと」講師 アグ
ネス・チャン氏 於敦賀市社
会福祉センター。

七月 ■敦賀市内中

学生五名を
ドイツへ観
音派遣。
■恐竜エキス
ポ2000
協賛ミュー
ジカル「が
んばれダス
トバスター



恐竜エキスポ2000 協賛ミュージカル

ズ「V.V.A.C.E」開催。於勝
山市

十月 ■「狂言を楽しむ会」開催
出演 茂山千作師 他 於敦
賀市プラザ萬象。

■第四回「福祉寄席」を県内六
福祉施設で巡回開催。
十一月 ■「げんでんふれあいコンサ
ート」(ジャズファンタジア in
ハーモニーホール) 開催。
出演 前田憲男とウインドフ
レーカース・阿川泰子。

■文化講演会開催「私が小説を
書く理由」講師 平野三枝氏
「私がおった人々」講師 阿川
佐和子氏 於福井商工会議所

平成十三年(二〇〇一年)

一月 ■日・英小学生絵画交流展開催
於敦賀原子力館・げんでんふ
れあいギャラリー。

二月 ■第二回「げんでんふるさと文化
賞(三名) およびげんでん芸
術新人賞(二名) 表彰式。
■第三回「ふるさと大賞」写真
コンテスト (テーマ「ふる
さとの花・木」) 表彰式。

■「げんでんふれあいコンサ
ート」(ジャズ&ゴスペルコン
サート) 開催。出演 渡辺真
知子・越智順子 他 於敦賀
市民文化センター。

三月 ■「斉藤一郎世界音楽の旅」コ
ンサートを福井県文化振興
事業団と共催。於ハーモニー
ホールふくい。

六月 ■「げんでんふれあいコンサ
ート」(長嶺ヤス子交フラメン

コ) 開催。於敦賀市民文化セ
ンター。

九月 ■第十一回財団理事会で理事長
に前川剛夫氏を選任。
十月 ■「狂言を楽しむ会」開催
出演 茂山千作師 他 於敦
賀市プラザ萬象。



狂言を楽しむ会 (茂山千作師 熱演)

■第五回「福祉演芸会」を県内
六福祉施設で巡回開催。
■「げんでんふれあいコンサ
ート」(中島啓江のミュージッ
クランド With Friends)
開催。於ハーモニー
ホールふくい。

十二月 ■日・英小学生絵画交流展開催。
於敦賀原子力館・げんでんふ
れあいギャラリー。

「財団十年のあゆみ」を詳しく知り
たい方は「げんでんふれあい福井」を
ご覧下さい。

「げんでんふれあい福井」は創刊号
から第二十八号までを財団のホーム
ページ (HP <http://www.genden.or.jp>)
に全て掲載してあります。

2007

ふくい県民総合文化祭開催

ふれあいフェスティバル県内各地で

ふくい県民総合文化祭(富財団協賛)は、平成十七年に本県で開催された「第二十回国民文化祭・ふくい2005」で結集された成果を一過性のものとならないよう、更に県民文化の振興につなげようと平成十八年度から「ふれあいフェスティバル」として継承して開催されています。

第二回となる今年度は、八月一日から三月十六日までの間に二十五のフェスティバルが順次開催される企画となっております。

県下各地域で分野別に大人から子供までが親しめる文化の祭典として繰り広げられています。

これまでに開催されたフェスティバルの一部をご紹介します。

ふれあい洋舞フェスティバル

本県で開催された「第二十回国民文化祭・ふくい2005」を契機に結成された福井県洋舞連盟の主催で、「第一回ふれあい洋舞フェスティバル」が九月二十四日福井市文化会館で開催されました。

加盟している七団体が芸術性の高い舞台をめざして日頃から積上げた練習の成果を披露しました。



ふれあい洋舞フェスティバル(バレエ)

クラシッククバレエやモダンダンスなど創造性あふれた華麗な舞を約二百人の出演者が多彩に繰り広げました。

太鼓ふれあいフェスティバル

福井県太鼓連盟主催の太鼓フェスティバルが九月二十三日越前市の「いまだて芸術館」で盛大に開催されました。

今年は、「太鼓魂」と銘うつて県内各地から十五団体と石川県から中庄虫送り太鼓保存会と富山県から天正いなほ太鼓保存会が特別出演し競演しました。

福井の太鼓「響」でオープニング。勇壮で迫力ある打ちさばきと体に響か伝わる和太鼓を披露しました。



太鼓魂 オープニング「福井の太鼓」

「朝六つ子供太鼓」や「はながたみ子供太鼓」をはじめ県内で活躍している団体が日々修練、研鑽に励んできた成果を次々と繰り広げました。

会場の多くの聴衆は、「伝統芸能である和太鼓の力強い演技と荘厳な響を心ゆくまで楽しんでいました。」

第十七回市町文協選抜芸能祭

第十七回福井県市町文協選抜芸能祭が十月七日福井市文化会館で開催されました。

ふくい県民総合文化祭の一環として



選抜芸能祭 たけふブテイトアンサンブルの演奏

開かれ十七の市町文協を代表する芸能部門の団体が発見の発表するものです。越前市文化協議

会のたけふブテイトアンサンブルの演奏で幕開け、合唱、民謡、能楽、日本舞踊、洋舞など多彩な演目を二十五団体、三五〇人の出演者が熱演しました。最後に、地元福井市文化協会が、「ふくい花模様」季節の中で」と題して



選抜芸能祭 浅見雅楽会(永平寺町)の演奏

構成演舞劇を上演しました。

この演舞劇は、八団体が合併前の市町村の花をテーマに合併し一体になった福井市の四季を豊かに表現しました。

第一章「春は旧美山町の「みやまつつじ」を邦楽で優雅に演奏、第二章「

初夏は福井市の「あじさい」を日本舞踊で舞い、第二章…秋は旧清水町の「コスモス」を民謡、民舞で、第四章…冬は、旧越前村の「水仙」を剣詩舞と時詠でそれぞれ演じ、第五章…ふたたび春は「桜」を洋舞でダイナミックに華やかに舞い踊り春爛漫の舞台で締めくくりました。

第二十七回 福井県市町文協選抜美術展

第二十七回福井県市町文協選抜美術展が十月十三日から十五日までの三日間勝山市営体育館で盛大に開催されました。

ふくい県民総合文化祭の一環として美術の修練と努力の結晶を発表し、また美術愛好家の交流の場として毎年開かれています。

開会式には、地元の山岸勝山市長、織田勝山市文化協会会長、福井県文化協議会の山田会長をはじめ県内文化団体等から関係者が約六十人が出席して今後の県内美術向上発展に努力していくことを誓っていました。

県内十七市町の文協から選ばれた



選抜美術展 秀作一同に展示

絵画、書道、写真、工芸作品三四四点が一同に展示されました。

絵画は、風景や人、静物を対象に描いた現代画など八十五点、書道は、漢詩、かな、前衛書などの作品八十五点、写真は、自然、風景、祭りなどの作品五十八点、工芸部門では、彫刻、陶芸品、掛軸、押し花、リサイクル作品など一六六点で、多彩な力作を出展した総合美術展となりました。

地域における美術活動で磨き上げた感性豊かな作品を訪れた市民や美術愛好家は、一点一点を熱心に鑑賞して文化の秋を満喫していました。

2007ふくい県民総合文化祭には下表のとおり実施されています。

財団では、分野別フェスティバルに参加する団体の技能向上のための事前研修等に支援するために助成制度を設けており、平成十九年度は七団体に助成されました。

2007ふくい県民総合文化祭 ふれあいフェスティバル参加事業一覧

福井県音楽コンクール	
予選会	8月18日(土)～19日(日)
本選会	10月6日(土)～7日(日)
受賞者演奏会	11月18日(日)
若狭プラスフェスタ2007	8月19日(日)
朝倉文化ふれあいフェスティバル	8月25日(土)～26日(日)
福井県吹奏楽Topコンサート	8月26日(日)
第10回たちまち近松まつり	9月22日(土)～23日(日)
太鼓ふれあいフェスティバル	9月23日(日)
ふれあい洋舞フェスティバル2007	9月24日(月・振休)
生活文化体験フェスティバル	10月1日(月)～2日(火)
和紙文化フェスティバル	10月6日(土)～28日(日)
えちぜんマリンバコンサート	10月7日(日)
ふくい子ども文化祭	11月3日(土祝)
第17回福井県市町文協選抜芸術祭	10月7日(日)
福井県川柳大会	10月7日(日)
第27回福井県市町文協選抜美術展	10月13日(土)～15日(月)
演劇ふれあいフェスティバル	10月13日(土)～31日(月)
福井県総合短歌大会	10月20日(土)
能酒の祭典	10月20日(土)～11日(日)
(県外特別展示12月1日(土)～23日(日))	
源氏物語の祭典	10月26日(金)～28日(日)
華のフェスティバル2007	10月26日(金)～29日(月)
茶道ふれあいフェスティバル	10月27日(土)～28日(日)
邦楽ふれあいフェスティバル	10月28日(日)
能楽の祭典 福井県各流合同能楽大会	11月11日(日)
福井県俳句大会	11月11日(日)
福井県文学コンクール	11月12日(月)
2007福井県総合美術展	11月16日(金)～25日(日)
恐竜文化フェスティバル	11月18日(日)
吟詠剣詩舞の祭典	11月23日(祝)
07ふくい詩祭	12月8日(土)
福井オペラ研究会公演	平成20年 2月9日(土)
マーチングバンド・パトントワーリング ふれあいフェスティバル	2月10日(日)
福井県合唱ふれあいフェスティバル	2月17日(日)
大正琴の祭典	3月2日(日)
民謡・民舞・民謡ふれあいフェスティバル	3月9日(日)
IT文化フェスティバル	3月15日(土)
日本舞踊の祭典	3月16日(日)

平成19年度 福井県高等学校総合文化祭

第18回福井県高等学校総合文化祭(当財団協賛)が高校演劇祭の開催(9月20日～23日)を初めに11の部門が平成20年2月20日までの間に行われます。

この文化祭は、「湧き立つ感性、熱き魂、われらが伝える文化」をテーマに文化、芸術の部門別に日頃から重ねてきた練習の成果を披露し交流を深めるもので、演劇、音楽、美術、書道、囲碁、将棋などを舞台発表や作品展を繰り広げます。

音楽フェスティバル郷土芸能部門が10月27日勝山市市民会館で開かれ4校が参加し、和太鼓に唄や踊りを加え、表情豊かに高校生らしくはつらつと演技していました。会場の観客からは、高校生の熱演と郷土芸能を未来につなぐすばらしさに声援を送っていました。



勝山高校・福井農林高校合同チームの演奏

◆第18回 福井県高等学校総合文化祭参加事業

福井県高校演劇祭	9月20日(木)～23日(日)
福井県高等学校かるた大会	9月29日(土)
定時制・通信制連合文化祭	10月14日(日)
音楽フェスティバル	10月27日～11月14日(水)
美術・工芸、書道、写真展	11月8日(木)～11日(日)
福井県高文連新聞大会	11月10日(土)
高校生文芸道場	11月10日(土)
放送部門	11月15日(木)
将棋新人大会県大会	11月17日(土)
秋季囲碁大会	11月18日(日)
弁論部門	平成20年2月20日(水)

継体天皇即位一五〇〇年

越前出自の継体天皇

記念年の顕彰事業

本年は、越前出自と伝えられる継体天皇が西暦五〇七年に樟葉宮で即位されて千五百年となる記念すべき年を迎えました。

一 継体大王即位 一五〇〇周年物語Ⅰ

県内外の継体天皇ゆかりの地を中心に、継体天皇の生いたちや伝説、業績などを未来に語り継いでいこうと様々な顕彰する取り組みが盛大に繰り広げられました。

本誌では、これまで「越前出自の継体天皇」(筆者青木豊昭氏)を三回シリーズ(げんでんふれあい福井)第二十六号(二十八号)で掲載しましたが、今回は、これまでに県内各地で実施された継体天皇即位千五百年記念行事の一部を紹介いたします。



継体天皇像(越前の里・花がたみ像)

即位前の大王が河和田の里を訪れた際、桃冠を落され漆塗りの職人が修理したことが越前漆器の産地に発展してきたことや大王と茨田姫に関する伝説および地区の行事を紹介。

○鯖江市立河和田小学校
即位前の大王が河和田の里を訪れた際、桃冠を落され漆塗りの職人が修理したことが越前漆器の産地に発展してきたことや大王と茨田姫に関する伝説および地区の行事を紹介。

県内の経済界や民間団体、ゆかりの市町、県で組織する継体大王即位一五〇〇周年記念事業実行委員会では、九月九日、福井市フェニックスプラザで「一五〇〇周年物語Ⅰ」を開催しました。

一部の「郷土の継体大王」子ども研究発表会では、子どもたちが学校や地域活動を通じて継体大王について調べたことなどを分りやすくまとめて報告していました。

○鯖江市立河和田小学校
即位前の大王が河和田の里を訪れた際、桃冠を落され漆塗りの職人が修理したことが越前漆器の産地に発展してきたことや大王と茨田姫に関する伝説および地区の行事を紹介。

現代舞踊で表現しました。



三代真史さん演じる継体天皇

第二部は、「継体大王を育んだ越前の国

滋賀県高島市)高島市の継体天皇伝承地や史跡を調査した結果を古代衣装姿で報告。

○校方市立樟葉北小学校(大坂府校方市)
学校に近い交野天神社や樟葉の宮跡を調べたことや地元が取り組んでいる顕彰活動を報告。

○越前市立花塚小学校
謡曲クラブ
皇子の頃
栗田部地区
で暮らしていた継体大王と照日の前
の恋物語で
ある謡曲
「花塚」を
披露。



子ども研究発表会(たかしまトライッ子クラブ)

振り付けで古代を偲ぶシーンを演じました。会場の約千四百人の観客は、魅了し大きな拍手を送っていました。

二 継体大王即位 一五〇〇周年物語Ⅱ

記念事業実行委員会による顕彰イベントの第二弾として「一五〇〇周年物語Ⅱ」が九月十六日福井市のフェニックスプラザで開かれました。

開会式に続いて第一部「我がまちの継体大王」と題して県内外のゆかりの地の代表者十人がスライドを使い伝説や関連する史跡、大王の業績を紹介しました。

本県ゆかり地の福井市、鯖江市、越前市、坂井市、永平寺町から出席。本県の自治体を代表して坂井市の坂本市長が治水伝説など本県と継体天皇のかかわりについて説明し、「郷土の歴史を再認識し、古代のロマンに思いをはせてほしい」と話されました。

県外からは、①継体天皇の生誕地の滋賀県高島市、②妃の皇子の出身地である愛知県春日井市、③樟葉宮跡伝承地の大阪府校方市、④筒城宮跡の京都府京田辺市、⑤三回目の遷都弟国宮の京都府長岡京市、⑥四回目の遷都の地鎌倉玉穂宮の奈良県桜井市、⑦北部九州の大塚族「鷲井の墓」若戸山古墳所在地、福岡県八女市、⑧継体陵として宮内庁が管理する太田茶臼山古墳所在の大阪府茨木市、⑨これまでの研究で真の継体陵といわれている今城塚古墳所在の大阪府高槻市がそれぞれ地域の誇りや取り組みについて報告しました。



歴史フォーラム

・福井、過去から未来に向かおう！
をテーマにフォーラムが開かれました。パネラーには、和田草京、都教育大

学名譽教授、考古学に詳しい俳優の刈谷俊介さん、鍬金冠と鍬銀冠を当時の製法により再現した清川メッキ工業の清川忠社長、福井から世界にはばたくコシヒカリを支援する会の若田忠満さんとコーディネーターに元県史編纂委員の白崎昭一郎さんが務め、継体天皇に関する考えをそれぞれ語り意見交換し、継体天皇出自を越の国・福井の誇りとして醸成していく必要性を訴えていました。

会場の約千百人の歴史ファンが熱心に聞き入り、古代継体朝のロマンとその意義について理解を深めていました。

三 越の国シンポジウム 2007

九月二十二日越の国シンポジウム編纂委員会他の主催で「越の国シンポジウム2007」が坂井市のハートピア春江で開催されました。

平成元年に「越まほろば物語」で古代史の權威である門脇彌二先生を座長に開いたシンポジウムに次いで二回目となりました。

オープニングは、越の大王保存会の巫女による「まほろばの舞」が厳かに優雅に舞われ会場は古代の雰囲気十分。

シンポジウムは、奈良文化財研究所名譽研究員の狩野久さんを座長に、パネラーとしてみくに史学研究会代表の高永亮一郎さん、高槻市しろあ歴史



「まほろばの舞」(上)とシンポジウム(下)

史館長の森田克行さん、元福井県埋蔵文化財調査センター所長の中司照世さん、立命館大学名誉教授の山尾久さんが継体天皇の偉業など研究内容を基調報告し、その後意見交換を行いました。会場に集った約五〇〇人の歴史ファンは、古代国家の構築と謎多い継体天皇像を興味津々に学んでいました。

四 「こしの都千五百年大祭」…古代ロマン 鮮やかに再現

越前市に継体天皇ゆかりの地や伝説が数多く受け継がれており、また丹南地域の産業、文化を県内外に発信しようとして「こしの都千五百年プロジェクト実行委員会」主催の記念行事が越前市で盛大に開催されました。

こしの都千五百年大祭のメインイベントは、十月五日、六日両日に千五百



浪漫回廊パレード (越前市味真野)

年の時空を超えて、先人達が築いた文化と技を再現し、さわやかな秋晴れの下、古代山車や古代衣装を身にまとった「浪漫回廊パレード」を華やかに繰り広げました。



浪漫回廊パレード (越前市栗田部)

また、栗田部地区に古くから伝わる伝統行事「蓬萊」と「連王の餅」が街を威勢よく練り歩き、匠の品々とともに岡太神社に奉納しました。

古代コーナーでは、甲冑などの「鉄冠」などの「金・銀」、須磨器などの「窯」、馬具などの「馬」、「運輪」の五分野で百点の技を展示。現代コーナーでは、ナノメッキ技術を用いた携帯電話の基盤や世界最小の「積層セラミックコンデンサー」など県内企業のテクノロジーを紹介しています。

このほか継体天皇関係の記念イベントが相次いで開催されていますが、主なものは次表のとおりです。

五 古代のテクノロジー

…継体大王の時代の最新技術
県立歴史博物館の特別展として十月十三日から十二月二日まで古代から現代まで本県のモノづくりの技を展示しています。

納しました。

浪漫回廊の終着地、大湊神社境内は六日夜幻想的な空間となり、日韓の古典芸能を競演する「伝統文化交流祭」でクライマックスを迎え、境内に詰めかけた人々は、こしの都の誇りと未来への希望をいだき見入っていました。

継体天皇即位1500周年記念の主なイベント

- 継体大王即位1500周年物語Ⅰ(福井市) 9月9日
- 継体大王即位1500周年物語Ⅱ(福井市) 9月16日
- フォーラム「古墳時代後期の江沼と三湖台古墳群」(石川県小松市) 9月16日
- 越の大王祭(坂井市) 9月22日
- 越の国シンポジウム2007(坂井市) 9月23日
- 中秋の名月 観月の夕べ(越前市) 9月25日
- 特別展「古典が語る継体天皇」(福井市) 9月29日～11月4日
- 古代ロマンの夕べ(越前市) 9月30日
- 歴史フォーラム「継体天皇と古代高島」(滋賀県高島市) 9月30日
- こしの都千五百年大祭(越前市) 10月5日～7日
- まつおか越の国伝説(永平寺町) 10月13日～14日
- 特別展「古代のテクノロジー—継体大王の時代の最新技術」(福井市) 10月13日～12月2日
- 「坂中井—越の国まん中物語」最終章(坂井市) 10月21日
- こしの都子どもまつり(越前市) 11月18日
- 謡曲「花屋」能(越前市) 11月20日
- 五穀豊穡の感謝祭(鯖江市) 11月23日
- 古代史フォーラム「歴史・伝承・ロマンとしての継体天皇」(東京・明治大学) 11月25日

若狭の妙玄寺義門 (上)

—江戸時代随一の国語学者—

文／永江秀雄

筆者プロフィール



郷土史家
— 永江 秀雄氏 —
Hideo Nagae

昭和2年、若狭町間で出生。福井師範学校卒業。地元小学校教員、農協職員、県史編集執筆委員、上中町教育委員等を歴任。昭和57年から22年間県立若狭歴史民俗資料館嘱託として、民俗、伝統文化の調査・研究に取り組み、多くの功績を残されました。

平成12年、文化財保護法50周年記念特別功労者として文部大臣表彰。平成13年、当財団げんでんふるさと文化賞を受賞されました。

「ふるさと福井人物シリーズ」第五弾として、「江戸時代に国語（和語）の研究に業績を残された妙玄寺義門師を取り上げました。

県立若狭歴史民俗資料館に在職時代にも、またそれ以前数十年來、若狭地方の歴史・民俗について研究を続けている郷土史家の永江秀雄さんに、二回に分けて執筆をお願いしました。

(財団編集係)

義門師の生い立ち

わが福井県には歴史上にも特筆されるべき、優れた二人の国語学者が出ておられます。私も深く崇拜するお二人のうち、ここではその中の「妙玄寺義門師」について、私の学んだことを中心に述べさせていただきます。今、私の手元には「東条義門」を題名とする書物が二冊ありますが、その一冊は著名な国語学者の三木幸信博士の著書で、昭和五十年発行のもの。他の一冊は昭和十八年発行にて、その前年に国学院大学講堂で開催された「東条義門百年祭記念講演会」での、故名の国語学者による貴重な発表と、義門師の曾孫であ

り、妙玄寺十世住職の東条義山先生による詳細な「妙玄寺義門伝」や、年譜などを内容とする、日本文学報国会編の書物です。



川越山妙玄寺 (小浜市小浜広峰 100)

この後者に見える義山先生の「妙玄寺義門伝」には、まず「義門の生没及びその称呼」について述べられて、天明六年（一七八六）七月七日誕生、天保十四年（一八四三）八月十五日に五十八歳で逝去されたことあり、その称呼については、義門師および家族の名

前や関係などが詳しく説明されています。そして、その中で、よく聞かれる「東条義門」の名称について、実は義門の当時には姓はなかったため、著書その他には、義門師自ら「妙玄寺義門」「若狭の義門」「釈義門」、または法名の「靈伝」などと記されており、「東条義門」と書かれたものは一つもないということ。明治五年十月に、先祖の住地（出身地）である三河国（愛知県）東条の名に因んで、初めて「東条」を姓とされたものであること。それで、「妙玄寺義門」「曾義門」単に「義門」と呼ぶのが穏当であると、義山先生は述べられています。私は同様の御整示を義門研究で有名な多屋頼俊博士から、懇切なお手紙を以て承ったこともありま

す。

なお、三木幸信博士の昭和三十八年発行の名著「義門の研究」の中には、義門師が大正八年に正五位の贈位を受けられた時の御沙汰書にも、「東条義門」とされていた事例をも挙げ、この名称で不都合はないと主張される地元研究者もあったことが、紹介されています。厳密には「妙玄寺義門」が適正であり、「東条義門」も一般的には、

むしろ親しみを以て容認されているのが、現実のようにも思われます。

義山先生の「義門伝」や、三木博士の著述によりますと、義門師の先祖は前述の如く三河国吉良荘東条の人で、三浦市部左衛門良興と言ひ、徳川家康の藩士（旗本）であったが、後に出家を志し東本願寺門主の教如上人に帰依して、古い寺を再興し良興寺と号し、その子や孫も住職を継いだことが記述されています。



『東条義門』（日本文学報国会編）

また、若狭国小浜藩主酒井氏の祖である酒井忠利が駿河（静岡県）の田中城から武蔵（埼玉県）川越城主として赴任した時、忠利の実母である妙玄尼も川越に引越したが、真宗の信仰が深い妙玄尼のために建てられた新寺を、その逝去のあと、改めて妙玄尼公を開

基とし、「妙玄寺」と称するようになったことが、述べられています。

その後、忠利の長子である酒井忠勝が、川越から若狭へ回替となった時、妙玄寺も小浜に移され、これが今、小浜市広峰に現存する川越山妙玄寺であるということ。三河の良興寺三世住職であった「敬伝」が、川越の妙玄尼の所へ招かれており、後に妙玄寺の初代住職となっていますが、この系譜が今に相続されているわけです。

義門師の父「伝瑞」は妙玄寺五世住職であり、義門はその三男でありました。長兄は早世したので、次兄の「実伝」が六世を襲ぎ、十四歳の時に義門は丹後田辺（京都府西舞鶴地区）の願藏寺の童子となりました。しかし、義門が二十二歳の時、兄の実伝が亡くなったため、義門は妙玄寺に帰り七世住職を継ぐこととなったのです。

義門師の学問

義門の父の伝瑞は、宗門の中でも傑出した学僧の一人であったといわれ、兄の実伝も父に劣らぬ学究の人で、蒲主酒井侯の寵遇を受け、将来を嘱望(しゆくわん)期

待)されていたとのこと。更に、九歳で父を喪った義門を十三歳まで養育してくれた叔父(母の弟)の慶海も、なかなかの学僧であり、義門が学問をすることにについて、この父や兄、また、特に学問の方法について、叔父から受けた影響が大きかったであろう、と考えられています。

義門師は十七歳の秋、初めて京都の高倉学寮に出て講義を受け、それ以後ここで学んでいます。この高倉学寮は、現在の



釋靈傳義門法師墓
義門師のお墓(妙玄寺)

の大谷大学の前身で、東本願寺派宗門教育の中心機関でありました。また、義門はここで教育を受けた「靈瑞」師を深く尊敬し、後には尾張(名古屋)の養念寺にも赴き、この恩師について宗学を修めた。宗門の教義をきわめるための字びを続けた、ということ。義門師は、その他にも師匠と仰ぐ幾人もの学者、また字友とも申すべき多くの研究者から、特に国語(和語)に

は至難でありますので、ここには一般にも知られているような、義門の研究成果と特徴を極く簡単に述べさせて頂きます。

(一) 活用の研究 国文法でよく言われる動詞などの活用形は、六段階として「未然・連用・終止・連体・已然(口語では仮定)・命令形」とされていますが、この形態は、国学者の本居春庭(本居宣長の長男)の「詞八衢」(活用研究書)の説く所を土台として、義門が初めて六段階とし、また初めて各活用形に「未然言(未然言とも)・連用言・截断言・連体言・已然言・希求言」と名付けたものであるということ。それが現在にも生きて用いられているのは、嬉しいことでもあります。なお、この活用については、義門の著書として「活語指南」「和語説略図」「友鏡」などがあります。

(二) 音韻の研究 義門が高倉学寮で学び始めた翌年、宗祖親鸞聖人の「尊号真像銘文」について、諸本を比較し書写して学ぶことになったようですが、その中で親鸞聖人が「信心」という言葉(漢字)に、必ず「シンジム」という振り仮名を付けておられる(信心はシン、心にはシム)ということがわかりました。このことから、わが国の古果の言語音に、「ン」「ム」の両音があったのではないかと考え、親切な学匠の教えも受けて、この研究を深め

ました。その成果は後年、「男信」(なましな)と題して出版され、漢字音まじりな日本語研究のために、極めて貴重な書籍となっています。

(三) 国語研究の目的 驚くばかり詳細精密な大著「義門の研究」の中で、著者三木幸信博士は、「繰返していふ。義門が国語の研究に入った目的は、真宗聖教の正解といふ一点にあった」と述べておられます。浄土真宗の根本経典である「大無量壽経」を始め、浄土三部経の講説を



「和語説略図」(妙玄寺蔵)

筆録された「真宗聖教和語説」の中に、義門師は、第一条「妙しく語意を弁えんが為の故に」など三ヶ条が説かれています。そのために、国語の研究が必要であるということ。また、東条義山先生は、「妙玄寺義門」(小浜市立図書館、昭和四十五年発行)の「義門の業績」の中で、「語学研究は義門の業績の中最大のものではあるが、実はこれが義門の本領ではなかったのである。義門においては、親鸞の素意を如実に窺い知る為の、いわば副産物であった」と述べておられます。

私は、妙玄寺義門師の崇高な信仰心に深甚なる敬意を捧げ、偉大なる国語学の成果に対し衷心よりの感謝を表したいと思えます。



妙玄寺義門師の顕彰碑(妙玄寺)

義門師の研究業績について、その全容や概要だけでも紹介することは、残念ながら私に

せられるばかりです。

福井県指定無形民俗文化財

「大火勢」

おおい町

愛宕さんの火祭り奉納

火除けと五穀豊穡を願い、お盆の精霊を送る行事で若狭街道一帯に残る愛宕信仰の火祭りです。おおい町福谷区に伝わる福井県指定無形民俗文化財の「大火勢」が、今年も八月十四日、十五日の二日間行われました。

おおい町福谷区は、小浜湾内青戸の入江に注ぐ佐分利川に沿って県道小浜・綾部線を上ること九如に舞鶴若狭自動車道の大飯高浜インターチェンジがあり、その目前にある戸数四十八戸、人口約二〇〇人の集落です。氏神である伊弉諾尊・伊弉冉尊を祀る伊射奈岐神社に毎年八月十四日と十五日（平成六年までは盂盆の八月二十三日、二十四日）の二日間、愛宕さんの火祭りとして大火勢が奉納されてきました。

大火勢の由来

大火勢についての記録は残されておらず起源は定かでないが、若狭地方には多くの集落で様々な型で火祭りが行われています。大火勢のルーツは、火防の守神の迦



真っ赤な炎を上げる「大火勢」

伊弉尊を祀る京都嵯峨の愛宕神社にあると言われています。迦伊神は、母である伊弉冉尊を殺りくするため、怒った父の神の伊弉諾尊は迦伊神を八つ裂きにする。その時涙は全土に散り火の神となる。真赤に燃える炎の中に天上より降臨される神をお迎えるのが大火勢です。火防を願う農民の心を愛宕信仰に伝播したのが愛宕山伏です。松上げの火祭りを嚮導すること

愛宕信仰を深く地域社会に結び付け、そうして迎え火や送り火などの盆の火祭りに融合していったのです。若狭における愛宕信仰の伝播は、愛宕神社の成立年代からみて一六〇〇年代と言われています。

福谷区民総力で事前の準備

この祭の事前の準備として材料の茅、藁を刈取って乾燥し、木を結ぶた

めに必要な根元のやわらかい蔕の蔓と横木（長さ四〜八m）を取っておく。火祭りに用いる火種は、京都の愛宕神社に代表者三名が参拝し、御説をして頂いたマツチです。



区民総出で「大火勢」作り

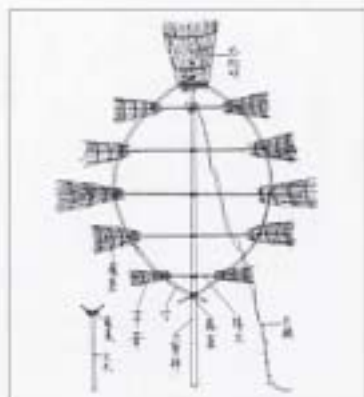
- 火祭の当日（八月十四日）は早朝から各戸から一名づつ集って
- ①火勢山の道路の草刈り、清掃。
 - ②火勢山で大火勢づくり。
 - ③乾燥した茅などで手松明づくり。
 - ④神社で盆踊りの会場づくり 等を手分けして行う。

大火勢づくりは、骨組みとして一本の火勢棒（十五m）に横木五本を蔕蔓でかく結びつけます。更に、火勢棒に横木を固定するため竹を弓形に結び付け、火勢棒の先端と横木に茅・藁を取り付けて夜を待ちます。

澄みきった夜空に神秘的な火祭り

家々の提灯に火がともり、澄みきった夜空に星が輝く午後八時頃に区民男子が地藏堂前に集合し、高張提灯を先頭に、太鼓、笛、鉦を打ち鳴らしながら手松明の明りで火勢山を登る。山頂まで登ると、山踊り、清めの塩撒きに続いて、京都愛宕神社の火種で大火勢に点火されます。

火が点くと威勢よい掛声で火勢を起し、直立すると数回、回転します。



大火勢の略図

あかあかと燃え盛る大火勢は、あかかも仏像の光背から炎を吹き出しているようにも見え神秘的です。

松明が燃え終ると太鼓を打って大火勢が無事終了することを区民に知らせます。平地に下ると迎えの高張提灯の先



火勢山での山踊り

導で伊射奈岐神社に向い、太鼓と踊りを奉納して火祭りを終えます。

大火勢保存会の白百合会長さんは、「この伝統ある火祭りは、多くの労力を要し区民が力を合わせて受け継いでいますが、最近、若者が減少してきており、後継者の育成が課題です」と話してくれました。



隅田川図一幅
 浮田一蕙筆

何という鳥かと船頭に尋ねると「都鳥」と答えました。そこで業平は、

名にし負はば

いざ言問はむ都鳥

わが思つ人は

ありやなしやと

(名に負っているのならば、さあ尋ねよう都鳥よ、私の想う人は生きて居るのかわいのか)と詠んだところ、舟の上の一行は都に居る大切な人を想って涙したという話です。

筆者の浮田一蕙は、京都に出生し、名は公信、のちに可為と改めました。字は土師、通称は主馬、のちに内蔵充、一惠斎の他に為牛、為仏子、谷神子、瑞草なども号しました。田中訥言について画を学びましたが、土佐派にも入門したのが、自ら画院生徒とも称しています。嘉永六年(1835)頃、江戸隅田川あたりに住み、在原業平の故事を偲んで「昔男精舎」と称しました。安政六年(1859)没。享年六十五歳。

- 絹本着色
- 縦35.5cm 横50.2cm
- 江戸後期
- 落款
- すみた川の ほとりにて
可為え
- 印章「昔男精舎」朱文方印

柳枝なびく岸辺に、狩衣姿の公家が扇子のようなもので彼方を指しています。そして、その先には、白い水鳥が泳いでいるのが望まれます。

この公家の従者をはじめ童子や駿馬の鬣を曳く郎党などの格好から、身分のある公家一行の旅路を描いたものと想われます。さらに画面には、舟を操る船頭がいますが、この身分の高い公家と何やら会話を交わしている風情です。

これらから推測すると、本図は「伊勢物語」の第十段、在原業平東下り都鳥を絵圖化したものと思われます。その内容は、業平一行が隅田川で舟に乗ろうとした際に、彼方の水際に、白い鳥で嘴と足が赤い鳥が魚を捕らえています。都には見えない鳥なので、

福井の文学碑

作曲家 今川 節

坂井市丸岡町霞の丸岡城の近くにある緑幼稚園の庭の片隅に「作曲家 今川節君の像」と書かれた胸像が建てられています。

その右横に若くして永眠した作曲家今川節をたたえる石碑があります。碑には、作曲家堀内敬三さんから追悼集「ベチカ」に寄せられた文章で

百歳の齢を数ふるも
無為に終る者少なからず
然るに、今川節君天折するも
神を仰ぎ芸術に生く
と刻まれています。



今川節を賛える石碑と胸像（緑幼稚園内）

全てを奇幸に捧げた不屈の作曲家

今川節は、明治四十一年（一九〇八）八月二十一日丸岡町霞で生まれ、母ヤスに育てられました。

大正四年（一九一五）平華小学校に入學し、丸岡メソジスト教会の日曜学校にも通いました。

教会の坂本牧師夫妻からオルガンを習い、弾けるようになっていました。

貧しい母親の家計を助けるため、高等科二年生を卒業し、大正十二年



作曲家 今川 節
歳で森田 銀行（現 福井銀行）丸岡支店の給

仕として勤めた。彼は、銀行に通いながら教会で重謡や賛美歌を弾いているうちに作曲の心がめばえてきました。そして好きな音楽の道をめざして児童文学雑誌「赤い鳥」の音楽通信講座で作曲法の勉強を続けました。

北原白秋の詩に作曲

大正十四年（一九二五）十六歳の時、北原白秋の詩「ちようちよう」に作曲して応募したところ、「赤い鳥」八月

号に成田為三氏の推奨作品として掲載されました。

「ちようちよう」で自信を得た節は、時間を惜しんで作曲に精進した。

作曲の通信指導には、山田耕筰の弟子の宮原禎次があたりました。

大正十五年（一九二六）代表作である「ベチカ」を作曲、雪の降る日は楽しいベチカ、で始まる北原白秋の詩に複合七拍子という技法で作曲しました。ベチカは既に山田耕筰が作曲していましたが、白秋は、「私は、今川君のベチカが好きだ」と賞賛されたそうです。昭和三年（一九二八）十一月の昭和天皇のご即位をお祝いする「御大典」に合せて文部省は、「大礼奉祝唱歌」の作曲を募集、彼は、二等に入選し、世に知られ始めることとなりました。



山田耕筰氏来朝の時 同席（中段左から2人目）

この時の賞金二〇〇円でオルガンを購入し益々作曲活動に力が入っていき、昭和五年地元元の音楽愛好者約二十名で丸岡ローレル・アマチュア管弦楽団を結成し、その指揮者として活躍しました。

交響組曲「四季」で見事一位に輝く

昭和八年（一九三三）時事新報主催の第二回日本音楽コンクールに郷土の風物や日本人の心を交響組曲「四季」にまとめて応募、同年五月十四日、東

京日比谷公会堂で予選を通過したこの作品が演奏され作曲の部で見事一位に輝き、そのステージで今川節が紹介されました。



第2回音楽コンクール入賞の賞状

和九年五月十二日、二十五歳の若さでその生涯を終えました。

生誕一〇〇周年を迎える

僅か十年間の作曲生活で約二六〇曲の作品を生み出しましたが、そのひとつひとつが彼の努力の賜なのです。しかしながら、それらの作品を歌い伝え、語り伝えていくことが、このところ忘れられていました。今年六月二十九日、県立音楽堂で音楽劇「今川節のはるなつ、あき、ふゆ」の公演がありました。今川節役は、人気上昇中のテノール歌手の田代万里生さんで、「ちようちよう」、「海」、「お山の大将」、「ベチカ」などを歌い演じ、今川節の面影を良く表現していました。多くの観客は今川節を偲んでいました。

来年、生誕百周年を迎えます。今後彼を顕彰する公演で作品がとり上げられ今川節の存在が甦って来ることを念じています。

（坂井市立丸岡図書館「今川節の部屋」の資料を参考にさせていただきます）

宇宙と科学の祭典

松本零士さん小中高生に「夢」を!

宇宙への夢をいだいて青少年の科学への探求心をくわくことを目的に活動している日本宇宙少年団若狭流星分団主催(当財団協賛)の「松本零士 in OBAMA 2007」が八月五日小浜市文化会館で開かれました。

同少年団理事長で「宇宙戦艦ヤマト」、「銀河鉄道999」などの作者の松本零士さんを招き、松本さんのアニメ作品上映と「時間は夢を裏切らない」と題する講演を聞きました。

松本さんは、漫画家になるまでの経過や、自身の体験をもとに話され「心の中



「夢に向かって」と語る松本零士さん

にある未来の自分の姿は、必ず現実となる。夢に向かって努力してほしい。」と子供達に熱く呼びかけました。

base よしもと「きらめきライブ」

若手芸人 熱演



人気上昇中「よしもと」若手芸人

JR直流化に伴う集客プログラム「遊藝塾」の一環として吉本新喜劇の若手芸

人を招き「base よしもときらめきライブ」が敦賀観光協会の主催(当財団協賛)で七月二十一日敦賀市民文化センターで開かれました。

出演者は、今人気上昇中の中山功太、ミサイルマン、餅餅、ジャンククション、金時、銀シャリ、マラドーナの七組がテンポの速い話しぶりでお笑い」を次々と演じ、前席に陣どった若い観客をはじめお客さんは熱い声援を送っていました。

当日は、敦賀港金ヶ崎緑地とその周辺で「きらめきフェスティバル」も開催されたこともあり会場には、多くの観客が訪れ、将来性が期待されている若手芸人の熱演を楽しんでいました。

日・英両国中学生親善交流

イギリス中学生を東海村へ招く

当財団は、日本原電機との共催で国際交流事業として、国際的視野に立つ若い人材の育成と友好交流を深めることを目的にイギリスの中学生と敦賀市、東海村の中学生を相互に派遣交流をしています。

昨年は、敦賀市と東海村(茨城県)の中学生五名づつと教員一名づつをイギリスへ親善派遣し、成果を収めてきました。今年は、昨年ホームステイ

十名を東海村へ招き、一年ぶりに再会し交流を深めました。

イギリスの中学生受け入れは、平成十六年に敦賀市へ招き今回で二回目です。

昨年イギリスを訪問した敦賀市の中学生五名を八月四日から六日までの三日間東海村へ派遣し、東海村の中学生とともに日英両国の友好親善の絆を一層深めました。

東海村では、八月四日「東海まつり」に参加、その後の交流会でイギリスのホストファミリーの近況を聞くなど、互いにコミュニケーションを深めていきました。五日は、常陸太田市の西山荘、水戸市の借楽園などを見学し、夕食会



茶道体験の中学生(水戸市好文学)

には、しばしの再会の喜びと、別れの抱擁と涙であふれていました。

- イギリスの中学生が一年の間にすい分大きくなっていった。
- 昨年仲良くなった友人と再会し話すことができて楽しかった。みんな大人っぽくなっていった。
- イギリスのホストファミリーは、とても元気でよろしくと言っていた。
- 国際交流によって視野が広がることや幅広い考え方ができることを今後活かしていきたい。

●昨年のイギリス訪問や今回の再会をさせていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

等のメッセージを寄せていただきました。



「東海まつり」に参加の日英中学生

武生国際音楽祭 2007

一流の演奏家が華麗な調べ

今年で第十八回目を迎える武生国際音楽祭2007(武生国際音楽祭推進会議主催、当財団協賛)が八月二十六日から九月二日までの八日間、越前市文化センターを主会場に寺院やお店など市内各所でコンサートや若手音楽家を育てる夏季アカデミーが開催されました。

この音楽祭の音楽監督に、作曲家で若手音楽家の育成に力を注いでいる将来性豊かな細川俊夫さんが就き、また、ピオラ奏者の今井信子さんがアドバイザーとして、指導されました。今回の音楽祭は、「東欧の



華麗な演奏でオープニングコンサート

音楽とバッハ」をテーマに、世界の一流アーティストによる二十一の公演を繰り広げました。

新進気鋭のアーティスト 5グループ

夜空に響く屋外ライブ

人気上昇中の新進気鋭のミュージシャンによる屋外ライブ「ビートフェニックス」(FM福井主催、当財団協賛)が八月二十四日夜福井市のLpa屋上駐車場特設ステージで開かれました。



熱唱する「D-51」

続いてロックグループ「SCOOBIE DO」は、個性的で激しいサウンドとパフオーマンスで、会場の若者はパワフルなリズムに合わせて一緒に踊っていました。

次に、「RieFu」が「ツキアカリ」他を熱唱。二〇〇五年の紅白歌合戦に出場した沖縄在住の「D-51」が「NO MORE CRY」などを、最後は、関西出身の「アンダーグラフ」が「ツバサ」他を披露しました。

月明りの夜空に熱いビートの響きとカラフルな照明をいっぱい浴びて、熱く激しい迫力満点の会場で、約一五〇〇人の若者は楽しんでいました。

混声合唱団 福井コールアカデミー

創立20周年記念 演奏会

混声合唱団「福井コールアカデミー」の創立二十周年を記念した定期演奏会(当財団協賛)が十月十四日県立音楽堂で開催されました。

福井コールアカデミーは、昭和六十二年に設立し、毎年定期演奏会を開き、県合唱コンクールで十五回金賞を受賞するなど本県合唱界の主力派グループです。



吉田浩之さんと共演する合唱団

今回の演奏会は三部構成で、第一部は「心にしみる日本の合唱曲」を、第二部は「世界の歌、心の歌」と題しておなじみの「アニー・ローリー」、「ローレライ」、「荒城の月」などを歌い、第三部は、ヘンデル作曲の「メサイア」を特別出演の敦賀市出身でテノール歌手の吉田浩之さんと共演。「キリストの降誕」で始まり「ハレルヤ」コーラスまで二十一曲をウィーン・岐阜・チェンバール・アンサンブルの演奏、松村勇さん指揮で約一時間合唱団と吉田さんはハモニーを奏でました。

た。ハモニー大ホール約二二〇〇人のお客さんは心に響くすばらしい歌声を堪能していました。

自然に学ぶ食育のつどい

元気に生きぬくために自然に帰ろう

次代を担う子ども達が心身ともに健全に育つために食育の推進に取り組んでいる敦賀市生活学校連絡協議会主催(当財団協賛)で「自然に学ぶ食育のつどい」が九月二十日敦賀市プラザ萬象大ホールで開催されました。

食育推進活動のパネル展示と合わせて自然食・自然療法研究家の東城百合子氏を招き「あなたもできる、食育」と題して講演会を開きました。

東城さんは、栄養士としてまた自ら肺結核を克服した体験をもとに、自然の生

命力に富んだ食品や自然療法を取り入れた健康法について「体は小宇宙です。心や体のバランスを大切に、日々の生活、習慣も自然に帰るよう心がけよう」と八十二歳の年齢を感じさせないパワフルな語りで説いていました。

会場の約三〇人のお客さんは、わかりやすい食と健康法を熱心に聞き入っていました。



「自然はあなたを元気にする」と東城さん

平成20年度財団の助成を受けたい団体を募集 申請期限4月21日(月)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて助成をしています。平成20年度において文化活動等の事業を行うため、財団の助成を受けたい団体を募集しています。

対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
3. 平成20年4月現在で、原則として設立後2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

応募の方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を4月21日(月)まで(申請事業の実施が4・5・6月の場合は3月21日まで)に当財団に提出してください。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは「げんでんふれあい福井財団」にお問合せ下さい。

読者アンケートご回答のまとめ

げんでん 福井 第27号

本誌第27号のアンケートに総数38通のご回答をいただきありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。



第27号で良かった記事は

- 第8回げんでんふるさと文化賞・芸術新人賞受賞インタビュー 6名
- 継体天皇即位 1500年 「越前出自の継体天皇(中)」 26名
- ふるさと福井人物シリーズ 「松平春樹(中)」 23名
- 第9回ふるさと大賞写真コンテスト 14名
- ふくいの伝統行事シリーズ 「勝山・左義長」 13名
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー／四季源氏絵巻立一基 8名
- 福井の文学碑 「作家・詩人 中野 重治」 15名
- げんでんふれあいコンサート2006 「角鹿の魔笛」熱演 4名
- 第9回 能・狂言を楽しむ会 1名
- 情報ファイル (平成19年度財団事業計画決まる他) 6名

本誌への主なご意見

- 表紙を飾る「福井の民俗芸能シリーズ」がすばらしいです。解説もよく、毎号楽しみです。
- 写真コンテストの調評は手に取るように説明して頂き、大変勉強になりました。
- 継体天皇出自近江説もあることから、とても興味深く読みました。
- 松平春樹を読み判りやすく書かれていた良かった。
- 今回の継体天皇や勝山左義長のこと、とても勉強になりました。
- 福井にもまだ「伝統」が多く残っている、シリーズになっているのが良い。
- 福井の歴史や伝統を大切に、それらを伝えていこうという姿勢がうかがえて良い。
- 県内の美術館、博物館に行くことがないので、誌上で鑑賞できるのが良い。
- 今年は継体天皇即位1500年で各地で行事が計画されているので、一般に周知してほしい。
- 活字を大きく、年配者にも読みやすい配慮をしてほしい。

財団イベント INFORMATION

絵師 米倉高加年の世界	展示会、朗読会、サイン会	11/25日～12/16日	ハートピア春江	福井新聞社・春江文化振興事業団主催 財団協賛
日英小学生絵画交流展	敦賀市内の4小学校とイギリス・セラフィールド地区の4小学校の児童絵画を展示	12/1日～12/16日	敦賀原子力館	(敦賀市明神町)
		12/18日～12/25日	げんでんふれあいギャラリー	(敦賀市本町)
福井文化振興学院「西美幸・西田優子」コレクション	ファッションショー	12/9日	福井市美術館	福井市文化振興学院主催 財団協賛
第10回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展	ふるさと大賞および入賞作品を展示	平成20年1/29日～2/10日	げんでんふれあいギャラリー	(敦賀市本町)
		平成20年2/15日～2/20日	ショッピングセンター「ベル」	(福井市花堂)
文化講演会	講師 義家 弘介(参議員議員、前教育再生会議委員)	平成20年 2/10日	小浜市文化会館	小浜市連合婦人会と財団共催
平成19年度福井県新人演奏会	公開オーディション	平成20年 2/24日	泉立音楽堂	福井県文化振興事業団主催 財団協賛
	新人演奏会	平成20年 3/23日		
げんでんふれあいコンサート2007	コロッセ	平成20年 3/20(祝・木)	敦賀市民文化センター	財団主催 入場料 2,000円

